



人命救助により表彰されました

看護部長 **神田 真理子** (かんだ まりこ)

8月10日の正午前、当院の渡邊克俊看護師は、家族と海水浴を楽しむため休日を利用し出雲市多伎町のキララビーチへ到着しました。海の家に従業員から溺れた人がいるとの情報を聞き、現場へ向かいました。遊泳中に溺れて心肺停止になった要救助者に対し、的確な心肺蘇生法を実施して数分後に呼吸及び心拍の再開に至りました。この行動に対して、出雲市消防本部消防長と出雲警察署長から感謝状を授与されました。

「一人では到底助けられなかった命だった」と、渡邊看護師は話していましたが、そこに居合わせた一人ひとりの懸命な行動と救命の連鎖によりかけがえのない命が繋がった瞬間だと思います。渡邊看護師は、DMAT(災害派遣医療チーム)や日本救急看護学会の認定トリアージナースとして、また、BLS(1次救命処置)の院内インストラクターとして院内看護職者のスキルアップを図るなど、救急現場の第一線で活動しており、蓄積された知識と技術をいかに発揮した結果が、救助された方の社会復帰に繋がったのだと思います。



島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

10月15日～11月14日 対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	時間	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
10/15(土)	9:30～11:30	平成28年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来・中央診療棟3階 カンファレンスルームだんだん	一般	がん患者・家族等・地域
10/16(日)	13:00～16:00	神在りの園 がんメディカルカフェ *予約制	みらい棟4階キヤラクン	一般	がん予防・がん治療 基盤推進プロジェクト事務局
10/27(木)	19:15～20:30	第13回島根東部リウマチセミナー 「関節リウマチの病態と整形外科治療」	★ホテル宍道湖	医療	整形外科
11/14(月)	14:00～16:00	世界糖尿病デー特別企画 第4回誰でも参加できる糖尿病教室 ①「世界糖尿病デー特別講演」	外来・中央診療棟3階 カンファレンスルームだんだん	一般	糖尿病ケアサポートチーム

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

NEWS

CONTENTS

- ・「マルチプレックスPCR法を用いた網羅的微生物の診断」を開始しました!
- ・GCUをリニューアル・増床しました
- ・人命救助により表彰されました
- ・島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

「マルチプレックスPCR法を用いた網羅的微生物の診断」を開始しました!

腫瘍・血液内科	教授	鈴木 淳司
眼科	教授	大平 明弘
肝臓内科	准教授	佐藤 秀一
小児科	教授	竹谷 健

当院では、今年7月から、先進医療として「マルチプレックス PCR 法を用いた網羅的微生物の診断」を行う運びとなりました。

感染症は、迅速かつ正確な診断が治療および感染対策の上で不可欠です。これまでの診断方法として、培養検査や抗体検査、ウイルス分離などがありましたが、低い陽性率、長時間かかる診断、微量の検体などの原因で、特に、抗がん剤や免疫抑制剤の治療を受けている患者さんやぶどう膜炎などの眼感染症の患者さんに対して、早期にかつ確実に診断することができませんでした。

そこで、当院では、マルチプレックス PCR 法を用いて網羅的に微生物を同時に診断する方法を確立しました。この方法では多くの病原体(HSV1, HSV2, VAV, EBV, CMV, HHV6, HHV7, HHV8, BKV, JCV, PalvoB19, Adenovirus, HAV, HBV, HCV, HDV, HEV, HGV, TTV, HTLV1/2, クラミジア, カンジダ, アスペルギルス, フアリウム, アカントアメーバ, トキソプラズマ, トキソカラ, 結核, 梅毒)を同時に測定します。眼の房水などのごく少量の検体でも測定可能で、検査当日ないしは翌日には結果を出すことができます。

日和見感染症の疑いのある患者さん、眼内感染症の患者さん、原因不明の肝機能障害の患者さん、脳炎脳症が疑われる患者さんなどをご紹介いただければ、迅速かつ正確に微生物を同定し、患者さんの適切な治療を提供させていただきます。

マルチプレックスPCR法を用いた網羅的微生物の診断

感染症の診断

- ・迅速かつ正確な診断が治療・感染対策の上で不可欠
- ・診断方法
 - 細菌：培養検査
 - 真菌：培養検査、抗体検査
 - ウイルス：抗体検査、ウイルス分離
 - 原虫：抗体検査

低い陽性率
長時間を要する
上昇しない抗体価
不十分な検体

対象

- ・抗がん剤、免疫抑制剤、生物学的製剤を使用中の患者さん
- ・脳炎脳症の患者さん
- ・肝機能障害の患者さん
- ・ぶどう膜炎などの眼科疾患の患者さん

マルチプレックスPCR法

- ・多くの病原体を同時に測定
- ・少ない検体で検査可能
- ・高い感度・特異度
- ・迅速な結果

HSV1	BKV	EBV	HHV6	ADV	CMV
HSV2	JCV	VZV	PVB19		HBV
HHV7			HHV8		

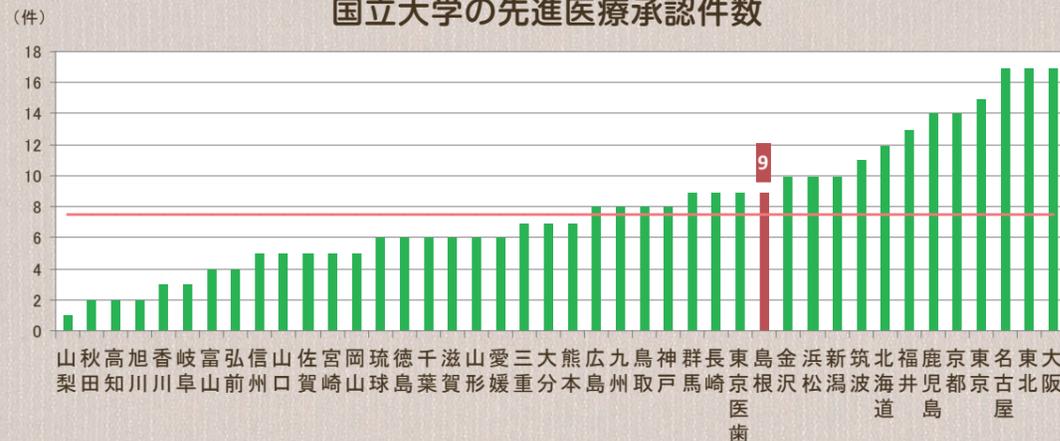
適切な医療の提供・迅速な感染制御・医療費の低減

問合せ先 輸血部 TEL:0853-20-2421

当院で実施している先進医療について

当院で承認されている先進医療は9月1日現在で9件です。承認件数で見ますと、国立大学42病院中13番目となります。

国立大学の先進医療承認件数



GCUをリニューアル・増床しました

周産期母子医療センター センター長

かなさき はるひこ
金崎 春彦

当院周産期母子医療センターは、本年8月から新生児集中治療室(NICU)、新生児回復治療室(GCU)を当院3階分娩室隣に移転してリニューアルし、現在はNICU6床、GCU6床で運用しております。センターのリニューアルに伴い病床面積は大幅に拡大し、10月からはGCUの病床数を9床へ増床しました。NICU内での緊急手術にも対応が可能であり、GCUは入院患児・家族のプライバシーが十分確保できるように配慮した病床としています。また増加する分娩数に対応する為、分娩室も2室から3室に増室しました。

当院は新生児に対する外科的治療及び心臓外科手術が可能な県内唯一の施設です。今後県内の周産期医療の状況によってはNICUを最大で9床、GCUは12床まで順次増床する予定であり、妊娠合併症や胎児異常などのリスクの高い妊婦、低出生体重児や病気が異常を持つ新生児を出生前から分娩・治療に至るまで集学的に管理する体制を整え島根県の周産期医療の水準向上に貢献します。

問合せ先

周産期母子医療センター(GCU) TEL:0853-20-2607



GCU外観



沐浴室



GCU入口



GCU内部



お知らせ

島大病院ニュース 2016年10月

妊孕性の温存に向けて ～受精卵、卵子・精子、卵巢組織凍結について～

かなさき はるひこ
周産期母子医療センター センター長 金崎 春彦

近年、がんに対する集学的治療の進歩により、多くのがん患者さんが病気を乗り切ることができるようになってきました。しかし、若年患者さんに対するがん治療は、その治療内容によっては性腺機能不全、妊孕性の消失を引き起こします。医療従事者にとってがん治療によるこれらの有害事象を許容せざるを得ない現状がありますが、一方で若年がん患者さんは「がん」による恐怖のみならず、妊孕性の消失に伴う将来への不安も抱えることになります。

がん治療時すでに結婚されている方に対しては卵子を採取し、ご主人の精子と受精させた上で受精卵を凍結保存します。未婚女性の場合は卵子凍結を行います。卵子の採取が困難である場合は、卵巢組織を腹腔鏡的に採取して卵巢組織凍結を行います。がん治療前の男性には精子の凍結保存をお勧めします。

若年のがん患者さんに対しては、治療前の妊孕性温存治療についてご相談いただきたいと思います。



問合せ先 産科・婦人科(外来) TEL:0853-20-2389

お知らせ
島大病院ニュース

平成28年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース 2016年10月



新人看護職員リフレッシュ宿泊研修in三瓶

看護部長 神田 真理子
かんだ まりこ

新人看護職員は、入職して半年が経過し、職場にも少しずつ慣れてきましたが、覚えることがたくさんあり緊張の毎日を過ごしています。そこで、職場を離れリラックスした雰囲気、新人同士の親睦を図り、仲間意識を深めることを目的に、9月11日、12日の1泊2日で、国立三瓶青少年交流の家にて、新人看護職員リフレッシュ宿泊研修を行いました。

初日は、ネイチャートレッキングという自然に関する設問に回答しながら野外を歩き、自然とふれあう活動をしました。2日目は、SAP(Sanbe Adventure Program 人間関係トレーニング)や、べっこう飴づくりを行いました。初日の夜は、交流会を開催しランキングゲームで非常に盛り上がりました。2日間をとおして同期との交流が図れ、今後の活力になったのではないかと思います。



SAPで学んだことは多く、行動を起こす意識づけや声かけ、人を思いやる大切さなど仕事に活かせることを学びました。



ご報告
島大病院ニュース

平成28年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



お知らせ



写真撮影:宮脇光太(Wharkey)

ワークショップ「絵の中に旅行しよう」

小児科 講師 かない りえ
金井 理恵

ジンベイザメ、カメにさかな、とり、かえると様々なモチーフをちりばめた大きなパネルが出来上がりました。8月15日～19日に小児病棟でワークショップ「絵の中に旅行しよう」が行われました。本学教育学部卒業生である画家の池平徹兵氏を中心に開かれたこのワークショップに小児病棟入院中の子どもたちと家族が参加しました。池平氏は以前に認知症傾向のある高齢者と共に行ったパネルが当院の市民ギャラリーに展示され、ご存じの方もいらっしゃると思います。

今回は子どもたちが思い思いに描いた動物、植物を大きなパネルに張り込み、さまざまなシーンを描いた作品となりました。最初は子どもたちが本当に描けるのか不安でしたが、入院中の子どもたちには普段は出来なかった事-汚れてもいい、はみ出してもいい-を楽しみながら、のびのびと絵を描く姿を見ることが出来ました。ひとつひとつの絵が組み合わせられ一つの世界になっていくマジックを見ている様でした。

来年1月にB病棟1階渡り廊下の市民ギャラリーにて展示予定です。是非一緒に旅をして下さい。



市民公開講座

テーマ:「つながる、緩和ケア」
～がんと診断された時から在宅まで切れ目なく～

当院は都道府県がん診療連携拠点病院の指定をうけており、市民の皆様へ緩和ケアを普及・啓発し、専門的緩和ケアを提供する役割を担っています。

出雲市と周辺地域の市民の皆様、および医療従事者の皆様を対象に緩和ケア普及・啓発を行う市民公開講座を開催します。

是非、ご参加下さい。



日時 平成28年11月23日(水) 13時～16時(開場12時30分)

場所 島根大学医学部 臨床講義棟 1階 小講義室

- 内容**
- ・基調講演
「バカボンパパに学ぶ苦しみの人間学」～聴くこと、語ることの本当の意味～
佐藤 泰子 氏 (京都大学大学院 人間・環境学研究科 研究員)
 - ・緩和ケア病棟の紹介
 - ・緩和ケアについての質問コーナー

問合せ先 緩和ケア講座 TEL(0853) 20-2237

主催:緩和ケア講座・緩和ケアセンター **共催:**がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン





ご報告

出雲市民公開講座 「いっしょに考えましょうがん医療」を開催しました

腫瘍センター センター長 すずみや じゅんじ
鈴木 淳司

市民と一緒にがん医療を考えるということを大きなテーマとして、平成19年からがん征圧月間に合わせて9月に、ビッグハート出雲で開催しています。今年は9月10日に11回目を開催しました。平成25年からは当院と島根県立中央病院が共同で企画・運営をし、出雲市長と島根県立中央病院院長及び井川病院長にご参加をいただいています。

この市民公開講座は、がんの最新の医学情報を市民の方にお伝えするだけでなく、栄養士、がん相談員、看護師、がん登録担当者、がんサロン・ピアサポーターをされている患者さんなどからの、様々ながん医療の情報を提供しています。また、昨年からは就労支援もテーマとしてとりあげ、社会保険労務士やハローワークの方の話もしていただいたり、質問コーナーを設けて、患者さんのプライバシーを考慮した方法で、先生方から回答をいただいています(下記写真)。

今後も、市民のみなさんといっしょにがん医療を考える公開講座を開催してまいります。次回は2017年9月9日ビッグハート出雲で開催予定です。多数のご来場をお待ちします。

平成28年度がんに関する市民公開講座
いっしょに考えましょう
がん医療
平成28年9月10日(土)
13:00~15:30(開場12:30) 入場無料
事前申込不要
会場 ビッグハート出雲 白のホール

テーマ **新しい時代のがん治療**
アートギャラリーにて展示および電子配布もあります

講演

- 【がん地域連携バスを使って、みんなで連携!】
島根県立中央病院 総合診療科 今田 敦宏
- 【がん看護外来ってどんなところ?~島根大学病院の取り組み~】
島根大学医学部附属病院 がん看護科 宮本 冬美
- 【ハローワークによる就労支援】
ハローワーク出雲 所長 内田 和久氏
- 【肺がん治療の最前線 -今話題の免疫療法と分子標的薬-】
島根大学医学部附属病院 呼吸器・化学療法内科 津浦 由佳里
- 【がんの放射線治療~ここまで治る、切らずに治す~】
島根大学医学部附属病院 放射線科 玉置 孝久
- 【悪性リンパ腫の患者さんへお伝えしたいこと、ケアと新しい治療】
島根大学医学部附属病院 腫瘍センター 鈴木 淳司

講演に関する質疑応答も行います

主催 島根大学医学部附属病院 腫瘍センター・島根県立中央病院 協賛 出雲市
問い合わせ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 腫瘍センター TEL 0853-20-2308
島根県立中央病院 医療支援室 TEL 0853-30-6482



ご報告

ISO14001(環境マネジメントシステム)の 定期審査を受審しました

医学部附属病院EMS対応委員会 委員長 かんだ ひでゆき
神田 秀幸

本学では、環境に関する国際標準規格であるISO14001の認証を、2006年3月に松江キャンパスで取得し、2008年3月に出雲キャンパスを含めた拡大認証を取得しました。2012年以降は出雲キャンパス単独で認証を更新しています。学内組織としてEMS対応委員会を設置し、環境教育・環境研究、エネルギー、生活系、実験系、キャンパスアメニティ、診療系の各作業部会に分かれて活動しています。作業部会ごとに目的・目標を設定し計画を立て、活動に取り組んでいます。当院内で取り組んでいる医療安全や感染対策などの業務と環境管理活動をリンクして行い、安全安心な医療環境の確立や感染性廃棄物の適切な管理を行っています。

去る8月23日~25日に認証機関による定期審査を受審したところ、ストロングポイント1件、グッドポイント7件、改善の機会5件を外部審査員より指摘頂き、今後の活動の推進に活かしていくところです。





ご報告



院内保育施設「うさぎ保育所」8月の行事から

～「うさぎだより」より一部抜粋～

● お兄さんお姉さんクラス大活躍の夏祭り

ひまわり組(4～5歳児)、こすもす組(3歳児)の子どもたちがずっと前から準備していた夏祭りが8月26日に催されました。アンパンマン音頭踊りをオープニングに、アイス屋さん、クッキー屋さん、お面屋さん、かき氷屋さんなどのお店が並びました。年少クラスはお買い物を楽しみました。ひまわり組はちゅうりっぷ組(1歳児後半～2歳児)とペアになり、買い物を手伝ったり、かき氷を食べさせたりしてお世話をすることが、微笑ましかったです。「楽しかった。最高!」と言う子どもたち。自分たちで企画し、準備した夏祭りは大成功に終わりました。

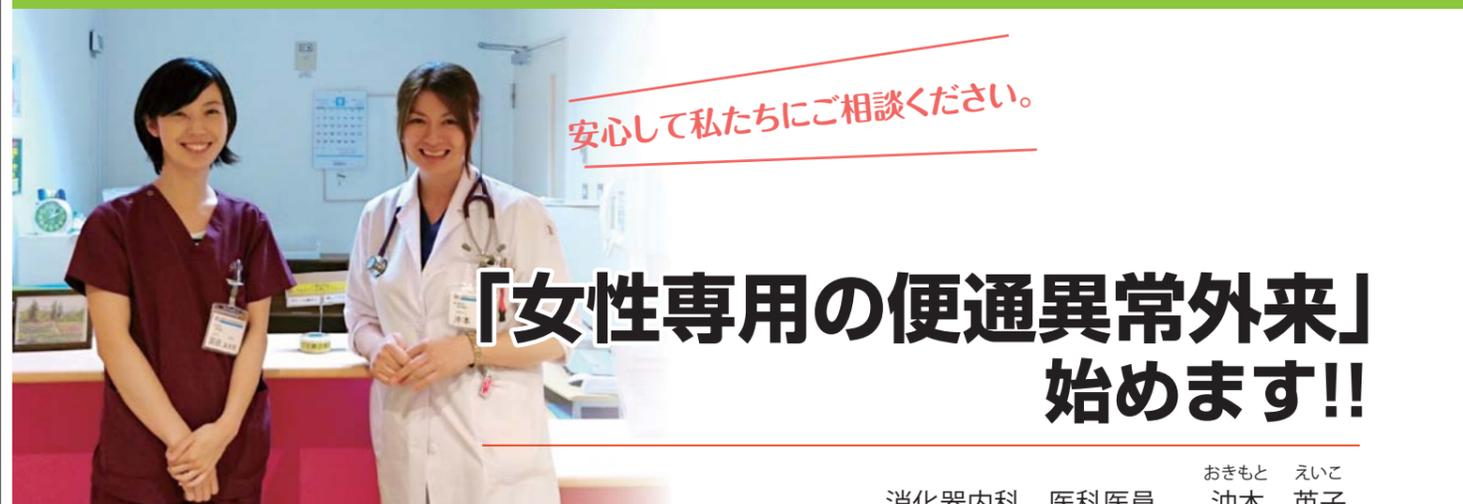


● 初めてのお泊り保育

7月26～27日に年長児12名のお泊り保育を行ないました。保育所で初めての試みでした。お家の方がいないところで泊まるのは、ほとんどの子が初めてとあって、最初は緊張していた子どもたちでしたが、プールで泳いで、肝試しをして、花火をするころにはすっかりリラックス。誰一人泣く子もなく、りっぱにお泊りができました。子どもたちはまたひとつ自信を付けました。



お知らせ



安心して私たちにご相談ください。

「女性専用の便通異常外来」 始めます!!

おきもと えいこ
消化器内科 医科医員 沖本 英子

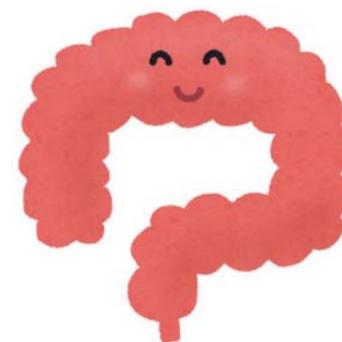
今秋より、当院の消化器内科では女性専用の便通異常外来と言う便秘症を中心とした特殊外来を開始します。完全予約制の専門外来で水曜日の午後を開きます。

便通異常には、便秘、下痢、便失禁などがありますが、特に便秘や下痢で悩む女性患者さんはたくさんいます。治療してもなかなか良くならない頑固な便秘や繰り返す下痢は、患者さんのQOLを低下させるだけでなく、大腸がんなどの器質的疾患の存在も心配になります。

大腸がんは女性のがん死亡率のトップですが、早期発見・早期治療すれば助かる病気でもあります。女性専用の便通異常外来では、診療所や病院の先生方から紹介いただいた女性の患者さんを女性医師が診察し、一般的な精密検査を行うことに加えて、腸管通過時間の測定や腸内細菌叢によるガス産生能の測定、セリアック病のスクリーニング検査を行い、患者さんごとに最良の治療法を提案します。生理や更年期など女性ならではの背景や、「恥ずかしい」と躊躇してしまう大腸内視鏡検査も、女性医師が対応させていただくことで、安心して診察・検査を受けていただけます。

また Myo Trac3 という最新の筋電図計を導入しており、排便時の腹圧のかけ方や肛門の弛緩がうまくいかないタイプの便秘(直腸性便秘)の方に肛門括約筋の訓練を行うことで症状の改善に役立てています。

便通異常でお困りの女性患者さんがおられましたらご紹介いたしますと幸いです。精査の上、最良の治療法を提案させていただきます。



受診を希望される方は予約をしてください。
(地域医療連携センター0853-20-2061)

※なお紹介状がないと、保険外併用療養費が5,400円が必要となります。かかりつけ医の先生と相談され、紹介状をお持ち下さい。





島大病院ニュース 2016年10月

お知らせ

「検診異常を放っておかない！～検診外来で精密検査を～」

消化器内科 医科医員 いそだ かずき
磯田 和樹

皆さん、こんにちは。

現在、当院消化器内科では検診外来を設けています。検診外来とは、胃がん検診・大腸がん検診で要精密検査となった方に対して、胃カメラ・大腸カメラで消化管をより詳細に観察し病変を検索するという外来です。当院では内視鏡のスペシャリストにより、丁寧で質の高い検査をご提供することを心がけています。

これまで検診外来の枠は毎週水曜日の午後にしにしか設けていませんでしたが、それでは都合がつかずやむなく受診を断念するという方が多くいらっしゃいました。そのような現状を打破するため、この度検診外来の枠を増設し、10月より毎週水曜日と金曜日の午後に行うこととなりました。これにより、今までよりも多くの方に受診していただけることを期待しています。実際、検診外来を契機に早期がんや進行がんが見つかることも少なくありませんので、検診で異常を指摘された場合には是非外来を受診していただきたいと考えています。

また胃がん検診・大腸がん検診だけでなく、腹部エコー検診で胆石や脂肪肝などを指摘された方に対しても当外来で精密検査を行いますので、これらに該当する方々も一度受診をご検討ください。

皆様の受診を心よりお待ちしております。

問合せ先 受診を希望される方は予約をしてください。地域医療連携センター 0853-20-2061

※なお紹介状がないと、保険外併用療養費が5,400円が必要となります。かかりつけ医の先生と相談され、紹介状をお持ち下さい。

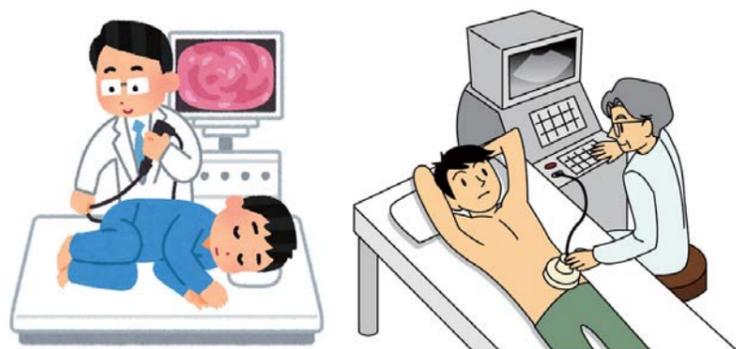
大腸がん検診の結果 以下のとおりでしたので紹介します。

紹介者： 様 (生年月日： 年齢： 性別：)

検査日：

受診番号 免疫便潜血反応検査結果：陽性

便中ヘモグロビン量：1日目(+) 347ng/ml 2日目(-) 17ng/ml



平成28年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2016年10月

お知らせ

第12回島大総合医セミナー

飯塚病院 総合診療科

清田雅智先生を招いて

この度、第12回島大総合医セミナーを開催致します。前回に引き続き、飯塚病院総合診療科 清田雅智先生をお招きしてレクチャーと症例検討を行ないます。多数のご参加と活発な討論をお願い致します。

参加費
無料

事前申し込みは
不要です。

平成28年

11月12日(土)

16:30~19:30

国際交流ラウンジ(講義棟1F)

司会:和足 孝之 先生(卒後臨床研修センター助教)

1. レクチャー 90分

『anemia in the elderly』

2. 症例検討 90分

※ 11月12日のセミナーは島根県医師会指定の生涯教育講座 3単位です。



11月13日(日) 9:00~12:00

・ER実地研修

今回も当院ERに於いてwalk in patientを対象とする実地診療指導を行ないます。要領は12日のセミナー時に説明します。

本セミナーは、文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業“リサーチマインドを持った総合診療医の養成”」の一環として、継続的に開催いたします。島根における総合診療・救急医療のさらなる発展を目指して皆様のご意見、ご提案をお寄せください。

主催:島根大学医学部附属病院 / 島根大学医学部医師会

問合せ先 (当番世話人):呼吸器・臨床腫瘍学 教授 磯部 威 TEL:0853-23-2111(代) 内線:2580



平成28年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





がん征圧月間イベント

「がん治療とともに あなたの暮らしを支えるヒント」を開催しました

がん征圧月間イベント実行委員会

がん治療による副作用は、患者さん・ご家族の生活に様々な不安や気がかりを生じさせます。治療中の生活が少しでも暮らしやすくなる様なヒントを持って帰っていただけたらとの思いから、第1回がん征圧月間イベントを開催しました。

当日は、「がんについて」、「がん看護専門外来」、「口腔ケアとお口の病気」、「がんとお金」という4つのミニセミナー、「リハビリ何でも相談」、「お薬の副作用相談」、「栄養相談」、「ハンドマッサージ」、「フットケア」、「アピアランスケア」、「口腔ケア」、「がん相談」、「就労相談」、「ピアサポーター相談」の各コーナーを設け、情報提供を行いました。

参加者からは、「話が聞けてよかった」、「相談ができて安心した」、「リラックスできた」等の感想が寄せられました。

今後も継続してイベントを開催することにより、社会全体でがんに対する理解を深め「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」をめざし、情報発信を続けていきたいと考えています。

